



平成29年度
学 生 募 集 要 項
入 学 案 内

歯科学専攻
博士課程(歯学履修課程)
(平成29年10月入学者用)

出願受付期間	平成29年6月5日(月)~6月9日(金) 【必着】
入学試験	平成29年7月5日(水)
合格者発表	平成29年7月20日(木)
入学日	平成29年10月1日

出願資格審査 申請受付期間 ※該当者のみ	平成29年5月22日(月)~5月26日(金)
----------------------------	------------------------

東北大学大学院歯学研究科

学生募集要項

1 アドミッション・ポリシー(入学者選抜方針)

東北大学大学院歯学研究科の使命は、独創性に富み、先端的な研究を推進することにより歯学の進歩・発展に寄与し、人類の健康と福祉の向上に貢献することである。

本研究科における研究・教育の目標は、すべての事象に対してつねに「考究」する科学心を養うことであり、高度の専門知識と技術を持ち、高い見識を有する研究者、医療従事者、教育者および行政者を、地域社会、国内のみならず、広く世界に向けて輩出することにある。

博士課程では、歯学を学ぶ強い意欲と優れた能力と共に、幅広い視野と柔軟な感性を持ち、「臨学一体」の基本理念のもと、独創的、先端的、学術的、萌芽的研究を推進しうる人を求める。

2 専攻、講座、専攻分野等及び募集人員

専攻	講座等	専攻分野等	募集人員
歯 科 学	口 腔 生 物 学	口腔生化学	若干名 (一般選抜、 社会人特別選抜、 外国人留学生特別選 抜、腫瘍専門歯科医 養成コースを全て含 む)
		歯科薬理学	
		口腔微生物学	
		歯内歯周治療学	
		口腔分子制御学	
	口 腔 機 能 形 態 学	口腔器官構造学	
		歯科法医情報学	
		口腔生理学	
		口腔システム補綴学	
		加齢歯科学	
		総合歯科診療部	
	口 腔 修 復 学	歯科生体材料学	
		歯科保存学	
		分子・再生歯科補綴学	
	口 腔 保 健 発 育 学	予防歯科学	
		小児発達歯科学	
		顎口腔矯正学	
		口腔障害科学	
		国際歯科保健学	
	口 腔 病 態 外 科 学	口腔病理学	
口腔診断学			
顎顔面・口腔外科学			
歯科口腔麻酔学			
顎 口 腔 創 建 学	顎口腔形態創建学		
	顎口腔機能創建学		
地 域 医 療 支 援 部 門 ^{※1}	地域口腔健康科学		
口 腔 腫 瘍 病 態 学 ^{※2}	口腔腫瘍制御学		
	口腔分子腫瘍学		
難 治 疾 患 ・ 口 腔 免 疫 学 ^{※2}	難治疾患・口腔免疫学		
新 生 体 素 材 学 ^{※3}	生体融合素材学		
	生体機能素材学		
生 体 再 生 歯 工 学 ^{※4}	生体再生歯工学		
口 腔 免 疫 病 態 制 御 学 ^{※5}	口腔免疫病態制御学		
長 寿 口 腔 科 学 ^{※5}	長寿口腔科学		

※1 東北メディカル・メガバンク機構、※2 協力講座(加齢医学研究所)、※3 協力講座(金属材料研究所)、※4 協力講座(医工学研究科)、※5 連携講座

3 出願資格

- ◎ 一般選抜に出願できる者は、次の(1)～(9)のいずれかに該当する者となります。
- ◎ 社会人特別選抜に出願できる者は、本大学院歯学研究科入学時に、官公庁、病院、診療所、企業等に既に就業している者又は大学等卒業後2年以上の社会経験を有する者で、次の(1)～(9)のいずれかに該当する者となります。
- ◎ 外国人留学生特別選抜に出願できる者は、外国人留学生及び外国の大学において学校教育を受けた者で、かつ、日本国籍を有しない者で、次の(1)～(9)のいずれかに該当する者となります。

なお、出願資格(6)～(9)に該当する方は、事前に出願資格審査が必要となりますので、「[注]の3～4」を参照し、必要な手続きを取ってください。

- (1) 大学の歯学、医学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者及び平成29年9月までに卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者及び平成29年9月までに修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者及び平成29年9月までに修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29年9月までに修了見込みの者
- (5) 修士課程、博士課程前期2年の課程又は専門職学位課程を修了した者及び平成29年9月までに修了見込みの者で、本大学院において、大学の医学、歯学、薬学または獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者等、昭和30年4月8日文部省告示第39号により文部科学大臣の指定した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が5年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成29年9月までに授与見込みの者
- (7) 大学の歯学、医学、薬学若しくは獣医学を履修する課程に4年以上在学した者、外国において学校教育における16年の課程(歯学、医学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29年9月末日までに在学又は修了見込みの者で、所定の単位を優秀な成績をもって修得したものと本大学院において認めた者
- (8) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第102条第2項の規定により他の大学院(歯学、医学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)に入学した者であって、本大学院においてその教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (9) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成29年9月末日までに24歳に達する者

- [注]** 1. 出願資格(1)、(5)、(7)及び(9)における「大学」とは、我が国における6年制大学を指します。
2. 出願資格(5)について、我が国において、修士課程、博士課程前期2年の課程又は専門職学位課程を修了した者及び指定の期日までに修了見込みの者については、事前の出願資格審査は要しません。

3. 出願資格(6)については、課程を修了した大学が、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた大学であることを事前に確認する必要がありますので、出願資格審査申請前に本研究科教務係へ問い合わせてください。
4. 出願資格審査申請希望者は、所定の様式を以下のウェブサイトからダウンロード、または本研究科教務係窓口で受領のうえ、下記期間中に申請してください。

・出願資格認定申請書(様式) <http://www.dent.tohoku.ac.jp/examine/graduate/>

・出願資格審査申請受付期間 平成29年5月22日(月)～5月26日(金)

4 出願手続

下表の必要書類を取りそろえ、出願期間中に本研究科教務係(6P参照)に提出してください。ただし、郵送する場合は必ず書留とし、封筒の表に「大学院博士課程入学志願書在中」と朱書きしてください。

・出願期間 **平成29年6月5日(月)～6月9日(金)【必着】**

書 類 等	備 考
入学志願書	本研究科所定用紙
成績証明書 ※	最終出身学校長が作成し、厳封したもの。本学歯学部出身者及び出願資格認定者は提出不要です。
卒業証明書 ※ または卒業見込証明書	最終出身学校長の発行する卒業(見込)証明書。本学歯学部出身者及び出願資格認定者は提出不要です。
受験票・写真票	本研究科所定用紙 (写真票の所定の欄には3ヶ月以内に撮影した正面・上半身・無帽、縦5cm×横4cmの写真を貼ってください。)
検定料	30,000円(郵便局で発行する普通為替証書とし、指定受取人欄は記入しないでください。)ただし、本学大学院修士課程、博士課程前期2年の課程又は専門職学位課程を平成29年9月修了見込みの者は、不要です。 東日本大震災、平成28年熊本地震により被災した受験者に対して、検定料免除の特別措置 を講じます。該当する者は、同封の別紙により手続きをしてください。国費外国人留学生及び入学検定料免除申請者は、納付不要です。
受験許可書(所定用紙) 在職証明書(様式任意) (社会人のみ)	社会人特別選抜による入学志願者 のみ提出してください。
志願理由書 (社会人のみ)	関心をもつ分野、研究計画、将来の目標等についてA4判用紙に1,000字程度にまとめたものを、 社会人特別選抜による入学志願者 のみ提出してください。
住民票 または在留カードの写し (外国人のみ)	本邦に在留している外国人(在留期間が90日を越えない者を除く)で入学を志願する者 のみ、提出してください。
受験票送付用封筒	郵便番号、住所及び氏名を記入し362円分の郵便切手を貼付した定形郵便用封筒(長形3号 23.5cm×12cm)を用意してください。
可否通知用封筒	郵便番号、住所及び氏名を記入し250円分の郵便切手を貼付した定形外郵便用封筒(角形2号 33.2cm×24cm)を用意してください。
入学手続書類送付宛先	本研究科所定用紙(入学手続書類送付宛先を記入してください)

※ 結婚等で証明書と現在の姓が異なっている場合は、姓変更の証明(戸籍抄本等)を提出してください。

注意事項

- (1) 希望する研究がその分野でできるか確認するため、出願前に必ずその分野教授に連絡を取ってください。
- (2) 書類に記載すべき事項の記入もれ、その他不備がある場合は、出願書類を受理しないことがあります。
- (3) 記載事項に虚偽の記入をした場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (4) 出願書類及び検定料は、事由のいかんにかかわらず返還しません。出願後の出願取下げ及び出願書

類の変更は認めません。

- (5) 窓口での受付時間は、9時～12時及び13時～16時30分までとします(土・日・祝日除く)。
- (6) 郵送による出願書類は、出願期間中に到着したものに限り受け付けます。
- (7) 出願書類の受理の通知はしません。ただし、通知を希望する場合は、郵便番号、住所及び氏名を記入した郵便はがきを同封してください。

5 選抜方法

- ・一般選抜：筆記試験(英語、専門科目)、面接試験の結果及び成績証明書を総合して選考します。
- ・社会人特別選抜：面接試験の結果、成績証明書及び志願理由書を総合して選考します。
- ・外国人留学生特別選抜：筆記試験(専門科目)、面接試験の結果及び成績証明書を総合して選考します。

*筆記試験(英語)では、辞書(一般的な語学用辞書1冊のみ)の使用を認めます。

*専門科目は、志望する各専攻分野を受験してください。

*社会人特別選抜による入学者は、在学中に本研究科が定める外国語試験に合格することを要しますが、筆記試験(英語)を受験し、これに合格することをもって代えることもできます。
希望者は入学志願書の外国語試験欄の「受験する」を選択してください。

6 試験期日・時間

・試験期日 平成29年7月5日(水)

・試験時間

区分	試験科目	時間
筆記試験	英語	9:00 ~ 10:30
	専門科目	11:00 ~ 12:00 (第1志望分野)
		12:00 ~ 13:00 (第2志望分野)
面接試験		13:30 ~

7 試験場

仙台市青葉区星陵町4番1号 東北大学大学院歯学研究科
(詳細は、受験票交付のときに指示します。)

8 合格者発表

平成29年7月20日(木) 午前10時(予定)

合格者の受験番号を本研究科教務係前窓口に掲示します。
また、選考結果の通知を受験者に郵送します。

9 その他

(1) 個人情報の取扱いについて

- ① 本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人東北大学個人情報保護規程」に基づき厳密に取り扱い、個人情報保護に万全を期しています。
- ② 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学者の選抜、入学手続、追跡調査、入学後の学生支援関係(奨学、授業料免除及び健康管理等)及び修学指導等の教育目的並びに授業料徴収等の関係に利用します。

(2) 受験及び修学上の配慮を必要とする者の受験・修学相談について

受験上の配慮及び修学上の配慮を必要とする者は、次の事項を記載した申請書(様式は定めなし)を提出し、相談してください。

なお、本研究科の入学試験においては、申請書の提出を理由として、合否判定の際に不利に取り扱われることはありません。

ア 相談の時期 原則として出願資格審査申請受付期間とします。

イ 申請書の記載内容

- ① 志願者の氏名、住所(連絡先電話番号も記載してください。)
- ② 出身大学等名
- ③ 受験上配慮措置を希望する事項
- ④ 修学上配慮を希望する事項
- ⑤ 出身大学等でとられていた配慮措置
- ⑥ 日常生活の状況
- ⑦ その他参考になる資料(現に治療中の者は、医師の診断書を添付してください。)

(3) 入学試験の成績開示について

入学試験の成績開示を求める場合は、受験者本人が、合格発表日から1か月(1か月後が土日・祝日の場合は、直前の平日)までに、所定の申請書及び受験票原本(コピー不可)を本研究科教務係へ提出してください。なお、成績開示は不合格者のみ対象となります。

(4) 入学試験について不明な点は、本研究科教務係に照会してください。なお、郵便で照会する場合は、返信用封筒(宛名明記・切手貼付)を同封してください。

東北大学大学院歯学研究科

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号

TEL 022-717-8248

FAX 022-717-8279

e-mail : den-kyom@grp.tohoku.ac.jp

(東北大学歯学部・歯学研究科教務係)

この募集要項・入学案内は、以下のウェブサイトでも見ることができます。

URL : <http://www.dent.tohoku.ac.jp/examine/graduate/>

東北大学大学院歯学研究科(博士課程)

入学案内

1 カリキュラム・ポリシー(教育方針)

博士課程の教育カリキュラムは、学生1名に対して複数名の教員による指導体制のもと、研究の早期立ち上げと専門性の獲得、さらに学際的視点の涵養を重視している。1～4年次にわたり博士論文完成に向けて様々な教育を受ける「博士論文特別研修」では、1年次に大学院研究基礎論を学ぶことで研究倫理から各種研究規定まで研究者が遵守すべき事項を身につけ、テーマ選定会議で自らの研究テーマと研究計画について発表し議論することで、研究の早期立ち上げを容易にしている。1年次より受講する「歯学特論」では、それぞれの教員の専門に基づく最先端の研究について学び、「実験技術トレーニングコース」では、研究に必要な種々の実験手技の修得を図る。加えて、最新の研究情報を少人数で学習する「歯学演習」では、高い目的意識を持って積極的に研究テーマに取り組めるように工夫されている。質の高い論文を完成させるためには、多くの教員が多様な視点から論文を評価することが必要である。これを可能にするために、国際的な一流雑誌へ論文を投稿するレベルをスタンダードとした予備審査制度の導入など、審査制度の充実を図るとともに、国際的視点の涵養のために国際学会での発表支援を行っている。

2 ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

歯学研究科博士課程に4年以上在学し、30単位以上(歯学特論9単位以上、歯学演習6単位以上、実験技術トレーニングコース6単位以上及び博士論文特別研修9単位)を修得し、かつ必要な研究指導を受け博士論文の審査及び最終試験に合格することにより「博士(歯学)」の学位が授与される。

ただし、在学期間に関しては、本研究科委員会が優れた研究業績をあげた者と特に認めた場合に限り、3年以上在学すれば足りるものとする。

3 外国語試験について

社会人特別選抜による入学者は、在学中に本研究科が定める外国語試験に合格しなければならないが、希望により、入学者の選抜時に実施する筆記試験(英語)を受験し、これに合格することをもって代えることもできる。

4 長期履修学生制度について

本研究科では、職業を有している等の事情(注1)によって、標準修業年限である4年を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了する(注2)ことを願い出た者については、審査の上、これを許可することがあります。この制度の適用者は「長期履修学生」といい、当該学生の授業料総支払額は、標準修業年限による修了者と同額になります。

この制度の適用を希望する場合は、入学手続の際に本研究科教務係へ申し出てください。

(注1)職業を有する者の他、出産・育児、介護等を行う必要のある者等、本研究科が適当と認める者。

(注2)在学年限は8年を超えることはできません。ただし、許可された修業年限の短縮を願い出ることはできます。

5 入学手続、入学式、オリエンテーションについて

入学手続は平成29年9月下旬までに手続きいただくことを予定しています。詳細は選考結果を送付する際に文書で通知します。

6 必要経費

入学料	282,000円（予定額）
授業料(年額)	535,800円（予定額）

入学料及び授業料の納付期日、納付方法等については、選考結果を送付する際に文書で通知します。なお、上記の納付金額は予定額であり、納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用されます。

また、本学大学院修士課程、博士課程前期2年の課程又は専門職学位課程を平成29年9月に修了する者は、入学料の納付は不要です。

7 入学料免除、授業料免除

経済的理由により、入学料・授業料を納付することが著しく困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる者に対しては、その願い出により、入学料・授業料の全額、半額、又は3分の1の額（授業料のみ）を免除することがあります。入学料・授業料の免除及び徴収猶予については、下記ウェブサイトを参照してください。また、入学手続に関する通知でもお知らせします。

【入学料及び授業料等免除について】

<http://www2.he.tohoku.ac.jp/menjo/>

8 奨学金制度(日本学生支援機構、その他)

日本学生支援機構奨学金 貸与月額 122,000円(平成29年度入学者第一種奨学金貸与月額)

日本学生支援機構の推薦基準に基づき、人物、健康、学力、家計について審査し、適格者を推薦します。

その他、各種財団、都道府県等の奨学金は、募集の都度、掲示により周知します。

9 学生教育研究災害傷害保険(学研災)、医学生教育研究賠償責任保険(医学賠)

東北大学で全学生に加入を義務付けている保険で、実習や講義、通学、課外活動中の怪我に係る治療費の給付や、他人にケガを負わせたり、器機を損壊した場合の保障がされます。

保険料は、2種類の保険をあわせて4年分で5,370円(平成29年度)です。

専攻分野の主な研究内容

※出願前に必ず分野教授に連絡を取ってください。

※各分野への連絡先は東北大学歯学研究科ウェブサイト「各講座・研究分野一覧」を参照してください。

講座名	専攻分野名・教授名	主 な 研 究 内 容
口腔生物学	口腔生化学 高橋 信博	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔微生物生態系(口腔バイオフィルム)のゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス ・嫌気実験システムを用いた齲蝕、歯周病、口臭関連菌の代謝および病原性に関する生化学的・分子生物学的研究 ・フッ化物や糖アルコールなど齲蝕予防効果を持つ物質に関する生化学的研究 ・トランジスタ微小 pH 電極テレメトリー法による食品や甘味料の齲蝕誘発性評価 ・口腔バイオフィルムによる歯科用バイオマテリアルの生物学的劣化に関する生化学的研究 ・口腔癌細胞のメタボロミクス
	歯科薬理学 若森 実	<ul style="list-style-type: none"> ・Ca²⁺透過型陽イオンチャネルの機能解析 ・味覚、痛覚、触覚の分子神経生物学的研究
	口腔微生物学	
	歯内歯周治療学 (兼)佐々木 啓一	<ul style="list-style-type: none"> ・歯内・歯周疾患発症機構の分子生物学的解析 ・歯内・歯周疾患の客観的病態診断法の開発 ・生理活性物質および成長因子を応用した歯内・歯周療法の開発 ・歯内・歯周療疾患と全身状態の相互作用に関する研究 ・レーザーの歯内・歯周療法への応用に関する研究 ・歯周組織再生のための新規スキャフォールドの開発
	口腔分子制御学 菅原 俊二	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔粘膜での免疫制御機構 ・金属アレルギーの発症機序 ・唾液腺疾患の分子構造 ・ビオチンによる炎症制御機構 ・ヒスタミンの免疫・生理作用 ・口腔感染症における慢性アレルギー炎症に関する研究 ・口腔感染症における上皮バリア破綻に関する研究 ・口腔常在細菌叢による口腔粘膜ホメオスタシス制御に関する研究 ・菌体成分による自然免疫応答に関する研究

口腔機能形態学	口腔器官構造学 市川 博之	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔および顔面領域の肉眼解剖学的研究 ・口腔顔面領域における痛みの伝達機構に関する研究 ・嚥下に関わる咽頭及びその周囲構造の神経支配に関する研究
	歯科法医情報学 (兼)佐々木 啓一	<ul style="list-style-type: none"> ・発掘人骨の形態学的研究 ・法医学的個人識別における歯科情報の適用 ・大規模災害時の検案支援とマネージメント ・日本人の歯の形態学的研究 ・哺乳類の歯の比較形態学的研究
口腔機能形態学	口腔生理学 (兼)若森 実	<ul style="list-style-type: none"> ・大脳触覚中枢(体性感覚野)の舌運動時神経活動に関する電気生理学的研究 ・味覚受容や舌の脂質感受性に関する心理物理学的・疫学的研究 ・歯周組織のメカニカルストレス受容機構に関する分子生物学的研究 ・神経細胞や骨芽細胞の分化・再生・細胞死の制御に関する分子生物学的研究
	口腔システム補綴学 佐々木 啓一	<ul style="list-style-type: none"> ・生体内測定に基づく部分床義歯補綴・インプラント補綴に関するバイオメカニクス ・部分床義歯補綴・インプラント補綴に関わる骨改造機転に関する核医学的分子イメージング研究 ・欠損補綴・顎顔面再建治療における移植・再生創建に関する研究 ・欠損補綴・顎顔面再建治療における新バイオマテリアルの開発と応用、機能性インターフェイス創生に関する研究 ・部分床義歯・インプラント義歯の長期経過に関する研究
	加齢歯科学 服部 佳功	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模コホート研究に基づく歯科口腔保健と全身保健との関連および因果関係の解析 ・多様なモダリティを応用した口腔機能の新規評価方法の開発 ・口腔機能特性とその加齢変化に関する研究 ・高齢者における歯科診療の適応とその評価方法・基準の策定に向けた検討 ・多職種連携に基づく高齢者歯科医療の供給体制に関する検討
	総合歯科診療部 菊池 雅彦	<ul style="list-style-type: none"> ・歯根膜細胞を応用した歯周組織再生に関する研究 ・歯の欠損や歯周病と全身疾患との関連性に関する研究 ・歯痛のサーカディアンリズムに関する研究 ・高齢者の口腔衛生と口腔内微生物に関する研究 ・プライマリケアにおける効率的な治療法の開発

口腔修復学	歯科生体材料学 (兼)鈴木 治	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい歯科用チタン合金の開発と応用の研究 ・歯科用抗菌性合金の研究 ・磁石による維持装置の研究 ・CAD/CAMに適した新しい快削性歯科材料の研究 ・歯科材料の口腔内での劣化と安全性の研究
	歯科保存学 齋藤 正寛	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の再生機構に関する研究 ・歯根膜形成機構に関する研究 ・循環器疾患と保存治療に関する研究 ・細胞移植治療に関する研究 ・抗炎症作用を有する歯科材料の開発
	分子・再生歯科補綴学 江草 宏	<ul style="list-style-type: none"> ・iPS 細胞を基盤とする口腔組織再生技術の開発 ・歯肉を用いた医療応用に安全な iPS 細胞の開発 ・バイオメテック骨再生材料の開発 ・ケミカルバイオロジーに基づいた骨再生促進剤の開発 ・歯槽骨吸収における骨免疫学の研究 ・テーラーメイド補綴歯科医療の確立に向けた術前診断法の開発 ・CAD/CAM 法を用いたメタルフリー歯冠修復の基礎・臨床的研究
口腔保健発育学	予防歯科学 小関 健由	<ul style="list-style-type: none"> ・初期齲蝕の評価方法と予防に関する研究 ・口臭の疫学と病因の細菌学的研究および診断法の開発 ・歯周疾患の発症のメカニズムの解析と予防法の開発 ・歯科疾患の分子疫学 ・薬物副作用による歯肉増殖症の発症機構と治療法 ・歯科疾患の集団管理と予防法の開発
	小児発達歯科学 福本 敏	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の発生に関わる新規分子の同定とその機能に関する研究 ・エナメル質形成に関する研究 ・口腔疾患遺伝子の同定とその機能に関する研究 ・歯および唾液腺の組織工学的再生に関する研究 ・幹細胞を用いた疾患発症メカニズムの解明と治療法の開発 ・新しい齲蝕予防に関わる材料開発と評価
	顎口腔矯正学 (兼)高橋 哲	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の移動のメカニズムの解析 ・骨組織がメカニカルストレスに応じて変形する過程を探る研究 ・顎顔面の発生のメカニズムの解析とその異常に対する遺伝子治療法の開発 ・骨細胞、歯根膜細胞、軟骨細胞のメカニカルストレス応答機構の解析 ・人工歯胚の再生に関する研究 ・矯正力によって生じる痛みの制御に関する基礎的研究 ・矯正用医用材料の開発 ・顎変形症、口唇裂、先天異常による不正咬合の歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正治療方法の開発

	<p>口腔障害科学 五十嵐 薫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な歯科矯正治療に関する研究 ・唇顎口蓋裂などの顎顔面部先天異常の診断と治療に関する研究 ・破骨細胞形成における免疫系細胞の役割に関する研究 ・抗炎症作用と骨形成作用を併せ持つ新規ビスフォスフォネートの開発 ・咀嚼習慣が糖代謝機構に与える影響に関する研究 ・生体に優しい形状記憶合金の開発
	<p>国際歯科保健学 小坂 健</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際比較による歯科医療・口腔保健問題の分析と対応策に関する研究 ・わが国の介護保険・医療制度における効果的な口腔ケアに関する手法の研究 ・口腔保健分野での国際協力に関わる手法や人材の育成に関する研究
口腔病態外科学	<p>口腔病理学 熊本 裕行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顎骨疾患に関する分子病理学的研究 ・歯の発育異常に関する臨床病理学および遺伝学的研究 ・口腔免疫疾患・口腔癌に関する臨床病理学および免疫組織化学的研究 ・生体材料を用いた再生医療に関する研究
	<p>口腔診断学 笹野 高嗣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全身疾患と口腔症状に関する診断学的研究 ・口腔および全身の画像診断および検査診断に関する研究 ・味覚障害の診断と治療に関する研究 ・ドライマウスの診断と治療に関する研究 ・自己免疫疾患および口腔粘膜疾患の診断と治療に関する研究 ・痛みと血流との機能的相関に関する研究 ・交感神経による痛みの修飾に関する組織生理学的研究
	<p>顎顔面・口腔外科学 高橋 哲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔顎顔面領域の形態的・機能的再建に関する研究 ・顎骨延長法および骨膜伸展法を応用した骨造成法に関する研究 ・インプラントのための各種骨造成法に関する研究 ・口唇口蓋裂の咬合再建に関する研究 ・顎関節機能障害の病態形成と治療に関する研究 ・口腔顎顔面外傷の治療法に関する研究 ・骨再生材料に関する基礎的ならびに臨床応用に関する研究 ・口腔癌の制御に関する研究 ・口腔癌の外科的再建治療に関する研究 ・骨形成を促進するインプラント材料の開発 ・3D CT/Photo を応用した顎変形の診断と手術シミュレーションの研究 ・Tissue Engineering を応用した顎骨再建に関する研究
	<p>歯科口腔麻酔学 正木 英二</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄レベル疼痛制御機構の解明 ・術後痛をはじめとする難治性疼痛管理法の開発 ・新たな気管支痙攣喘息治療法の開発 ・気管支上皮に注目したCOPD管理法

顎口腔創建学	顎口腔形態創建学 笹野 泰之	<ul style="list-style-type: none"> 骨と歯の発生及び修復機構 細胞外マトリックスの硬組織細胞分化における制御機構 硬組織細胞外マトリックスのリモデリング 歯周組織の形成及び修復機構 硬組織における石灰化の制御機構 	
	顎口腔機能創建学 鈴木 治	<ul style="list-style-type: none"> 骨および歯の再生医・歯学研究 細胞分化を制御する三次元細胞培養デバイス開発 リン酸オクタカルシウム(OCP)による骨再生研究 骨再生医療のためのドラッグデリバリーシステムの開発 バイオマテリアルの生体融合性および表面清浄性に関する研究 	
東北メデイカル・メガバンク機構	部門 地域医療支援 地域口腔健康科学 坪井 明人	<ul style="list-style-type: none"> 地域の口腔保健支援システムならびにプログラムの構築 全身の健康に影響を及ぼす口腔由来健康因子の解明・口腔の健康維持と増進に関連するゲノミクス 	
協力講座	口腔腫瘍病態学	口腔腫瘍制御学 堀内 久徳	<ul style="list-style-type: none"> 低分子量G蛋白質の脂質修飾に関する研究 細胞内栄養の感知機構 血栓形成メカニズムの基礎的・臨床的研究 自然免疫における好中球 NE 石形成機構
		口腔分子腫瘍学 本橋 ほづみ	<ul style="list-style-type: none"> がんのイニシエーション・プロモーションにおける酸化ストレス応答機構 がん細胞の代謝リプログラミングとストレス応答機構 細胞のがん化における核内レドックス反応とゲノム防御機構 細胞老化におけるストレス応答機構
	口腔免疫学・難治疾患	難治疾患・口腔免疫学 小笠原 康悦	<ul style="list-style-type: none"> 自己免疫性糖尿病、シェーグレン症候群などの自己免疫疾患の発症機構 金属アレルギーの発症機構 発がん、がん転移における免疫監視機構 インフルエンザやウイルス性肝炎などの新興・再興感染症における免疫応答機構
	新生体素材学	生体融合素材学 後藤 孝	<ul style="list-style-type: none"> 強度、弾力性、保水性等に優れた、自己組織置換型生体融合材料の開発 チタンやヒドロキシアパタイトに対し、細胞接着性、組織融合性を高める表面性状加工技術開発 細胞親和性及び接着性、保水性、保温性、加工性等に優れたハイブリッド人工組織の開発
		生体機能素材学	<ul style="list-style-type: none"> 生体機能と調和した人工歯根、人工骨等の生体機能材料の開発 生体組織と同等以上の機械的・生物学的性質を持った生体機能材料の開発 疾病により欠損した生体機能を補填する高機能材料の開発
	生体再生歯工学	生体再生歯工学 鎌倉 慎治	<ul style="list-style-type: none"> リン酸オクタカルシウム・コラーゲン複合体による骨再生研究 骨再生に関連する動物実験モデル作製に関する研究 再生骨組織の定量化に関する研究

連携講座	口腔免疫病態制御学	口腔免疫病態制御学 高木 智	<ul style="list-style-type: none"> ・液性免疫応答の成立と維持機構及びその制御 ・自己抗体産生のメカニズムと自己免疫病態への関与 ・免疫系の修復・再構築制御法の開発
	長寿口腔科学	長寿口腔科学 松下 健二 新飯田 俊平	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔の健康と老年病との関連性に関する研究 ・血管病としての歯周病の病態解析とその制御 ・新規骨代謝関連分子の探索的研究 ・加齢による硬組織の吸収・破壊メカニズムの分子生物学的研究

腫瘍専門歯科医養成コース

悪性腫瘍(がん)は、わが国の死亡原因の第1位であり、2人に1人が罹患し、3人に1人が死亡する時代を迎えました。本コースは、歯科医を対象とした口腔がん医療専門の歯科口腔外科医を養成するコースです。本コースの学生は、がん診療に必要な臨床腫瘍学の総論と各論を系統講義コースで履修し、関連施設および医学部関連各科等で実地臨床経験を積んだ後、論文研究で口腔腫瘍学に関連する論文作成を行うこととなります。詳細は、下記担当教員までお問い合わせください。

教授名	主な研究内容
高橋 哲 (顎顔面・口腔外科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔顎顔面領域の形態的・機能的再建に関する研究 ・顎骨延長法および骨膜伸展法を応用した骨造成法に関する研究 ・インプラントのための各種骨造成法に関する研究 ・口唇口蓋裂の咬合再建に関する研究 ・顎関節機能障害の病態形成と治療に関する研究 ・口腔顎顔面外傷の治療法に関する研究 ・骨再生材料に関する基礎的ならびに臨床応用に関する研究 ・口腔癌の制御に関する研究 ・口腔癌の外科的再建治療に関する研究 ・骨形成を促進するインプラント材料の開発 ・3D CT/Photo を応用した顎変形の診断と手術シミュレーションの研究 ・Tissue Engineering を応用した顎骨再建に関する研究

ダブルディグリー・プログラム

本研究科では、「国際知」「融合知」をキーワードとした歯学のイノベーションを通して「東アジアスタンダード」を構築し、日本を含む東アジアの歯学・歯科医療レベルの向上を図ることを目的とした大学院教育プロジェクトとして、中国、韓国の有力歯学系大学院との間でダブルディグリー・プログラム(DD プログラム)を実施しています。

本プログラムでは、1人の大学院生が2つの大学の大学院生となり、在学中に相手校へ一定期間留学し、両校の教員陣による共同教育を行います。条件を満たせば両校からの学位を取得することが可能です。

現在、北京大学口腔医学院(中国)、四川大学華西口腔医学院(中国)、天津医科大学口腔医学院(中国)、および全南大学校歯医学専門大学院(韓国)、ソウル大学校歯医学専門大学院(韓国)と合意がなされています。興味のある方は、本研究科教務係(P.6)までお問い合わせください。